

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 理学部

組織目標		達成状況(成果)		
教育	1 教育・研究内容の紹介ならびに、AO入試や前期日程等の入学試験に関する広報活動を積極的に行い、優秀な学生の確保に努める。 2 自主学習室、ゼミ室等の学習環境の点検整備、TOEIC受験の奨励、資格取得支援等のキャリアサポート事業などの学生支援体制の充実を図る。 3 障害学生に対する学習支援の充実を図る。 4 講習会等を利用して教員による学習支援ソフトMoodle-Sciの利用拡大を図る。 5 研究者育成の学部教育プログラムの開発研究を行う。 6 高大連携事業の一層の拡大と促進を図る。	1 県内及び県外(広島、兵庫、大阪、高知)の高校を廻り広報活動を行った。化学科及び生物学科のAO入試の定員の見直しを諮った。理学部ホームページの改訂を行った。 2 自主学習室等の環境整備の点検を行いe-Learningの積極的な利用を促した。 また、学生の学習をサポートするため大学院生・博士研究員をアカデミック・アドバイザー・アシスタントとして採用し、学部生の指導に当たるためのアカデミック・アドバイザー・ルームの整備を行い、11月に運用を開始した。 3 障害学生に修学支援として、バリアフリー化(建物出入口・講義室等)を実施した。 4 学習支援ソフトMoodle-Sciの利用を教員に継続的に依頼した。 5 学部教育プログラムの開発研究にとまない、生物学科において、カリキュラムの見直しを行った。 6 高校生の専門講義の聴講受け入れ、スーパーサイエンスハイスクール指定高校の運営指導教員や高校評議員を派遣し、高大連携事業の一層の拡大と促進を図る。		
	達成度: ④ 3 2 1			
研究	1 重点的プロジェクト研究及び新分野の創成を目指す基礎研究を推進する。	(1)「先端環境エネルギーデバイス・材料開発システム」の大型施設整備が採択された。 (2)戦略的プログラム支援ユニットとして、理学系教員が中心となる「量子環境放射光科学プロジェクト」が採択され、活動を開始した。		
	達成度: ④ 3 2 1			
社会貢献	1 公開講座・出前授業・研究室公開を通じて、学部の教育・研究内容を公開し、地域社会に貢献する。	(1)物理系教員3名による公開講座を実施した。定員を超過する受講者の参加があった。 (2)14校に出前授業をおこなった。 (3)理学部独自に高校生及び在学生の保護者を対象としたオープンスクールを実施し、講演会・研究室公開を行った。 (4)小学生向けには「サタデーサイエンスセミナー」を、中学生向けには「理数に挑戦」を実施し、物理オリンピックに連続する「物理チャレンジ」に理学部教員が主体的に関わった。		
	達成度: 4 ③ 2 1			
客観的指標	事項	前年	今年目標	達成状況
	学部入試倍率	AO 1.7倍 前期 2.7倍	AO 2.0倍 前期2.5倍	AO 1.8倍 前期1.9倍
	大学院充足率			
	科研費申請率			
	科研費採択率			
	共同研究件数			
	受託研究件数			
	留年・休学・退学者数	留年36人 休学21名 退学5名	(今年の状況) 留年34人 休学17名 退学7名	
就職率	94.60%	90%	86.50%	
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。 教育・研究・社会貢献の目標に対しての取組は、ほぼ達成出来たと思われるが、学部入試倍率については、結果的に目標を大幅に下回った。次年度は、特に志願率アップのための方策を再検討し、広報活動等に努力したい。				

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)